

## 第 24 回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議【知事発表】

日時 2015 年 10 月 12 日（月）13:30～15:25

会場 唐津シーサイドホテル 西館 1 階 虹 B

### 開会

（山中） 定刻になりましたので、ただ今から第 24 回日韓海峡沿岸県市道交流知事会議を開催いたします。私は本日の会議の進行を務めます、佐賀県国際経済・交流課の山中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議はお手元のカラー刷りの冊子、9～10 ページの詳細日程に従って進行いたします。まず議事に入る前にこれまでの知事会議の経過につきまして、佐賀県国際・観光部長黒岩春地からご報告申し上げます。

### 経過報告

黒岩 春地（佐賀県国際・観光部長）

佐賀県国際・観光部長の黒岩でございます。日韓海峡沿岸県市道交流知事会議のこれまでの経過について、簡単にご報告いたします。

まずお手元の資料、知事会議パンフレットの 3～6 ページをご参照ください。この会議は 1990 年 10 月、長崎県対馬で開催された九州北部 3 県、福岡、佐賀、長崎の知事懇話会において、韓国南岸地域との交流推進を提案され、韓国南岸地域の四つの市道が同意した中でスタートいたしました。

第 1 回会議は 1992 年 8 月、済州道において開催され、翌年の 1993 年 6 月、ここ佐賀県において第 2 回会議が開催されたものでございます。その後、1998 年 9 月、全羅南道において開催された第 7 回会議から山口県が新たに参加され、現在の 8 県市道の形で交流を進めてきております。

長い年月の間、日韓 8 県市道のそれぞれの努力により、交互に会議が積み重ねられ、昨年 2014 年には全羅南道において第 23 回会議が開催され、本日、佐賀県において 4 巡目の始まりとなる第 24 回会議が開催される形となりました。

これまで両地域間の相互理解と友好関係の増進を図りながら、両地域の発展と繁栄に資するため、観光や経済分野、青少年交流や文化・スポーツ交流、農林水産や環境分野など、幅広い分野において日韓の共同によりさまざまな交流事業を展開してまいりました。

ここで、これまでの歴史と前回会議の様子、8 県市道の紹介を簡単にまとめた映像がございますので、スクリーンでご覧いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

—映像上映—

以上、経過報告とさせていただきます。ありがとうございました。

（山中） それでは、ただ今から知事会議の議事を始めさせていただきます。まず、議事

に先立ち、佐賀県知事、山口祥義が歓迎のご挨拶を申し上げます。

## 議長挨拶

### 山口 祥義（佐賀県知事）

皆さま、こんにちは。佐賀県知事の山口祥義でございます。

日韓海峡沿岸の県市道の知事・市長をはじめとする皆さま方におかれましては、佐賀県へようこそお越しいただきました。あらためて、心から歓迎申し上げます。

今年、2015年は、日韓国交正常化50周年に当たります。日韓国交正常化以降、両国の交流と協力関係は飛躍的に進展し、文化やスポーツなどさまざまな広がりを見せているところです。この記念すべき年に皆さま方をお迎えし、4巡目の始まりとなる知事会議を本県で開催できることを大変うれしく思います。これもひとえに皆さまのご支援とご協力の賜物と、心から感謝申し上げます。

本知事会議では、これまでさまざまな分野において活発な議論を交わし、それぞれの分野で共同交流事業を実施し、日韓海峡沿岸8県市道のゆるぎない信頼関係を築き、日韓地域間交流の先導的役割を果たしてまいりました。

日本と韓国は未来へ共に歩んでいく、重要な隣国であります。日韓関係は時に難しい局面を迎えることもありますが、国と国との関係が複雑な状況にありましても、地域と地域との交流を変わず積み重ねていくことこそが、国と国との信頼関係を深め、良好な関係を築いていく上で、その礎となるものだと思っています。そういった意味でも、日韓8県市道の自治体のリーダーが一堂に会し、幅広い分野について率直に意見交換を行い、交流を促進していくことは誠に意義深いものだと思っています。

地域と地域との結び付きを強め、交流を進める上で大切なものは、そこにある資源を磨き上げて、新たな活動を生み出す「人」であります。これまでさまざまな共同交流事業の中で、日韓海峡沿岸8県市道の「人」と交流を深め、多様な考え方に触れるとともに、それぞれの地域の素晴らしさを再認識するなど、たくさんの発見があったものと思います。

今回の会議のテーマは「スポーツの振興・交流」。「人」と「人」をつなぐスポーツを通して、それぞれの地域が輝くための原石を見つけ、そしていきいきと輝く人の交流を広げていくことで、日韓両国の絆をさらに深めていきたいと思っています。皆さまと共に今回の知事会議を実りあるものになりたいと思います。

最後になりますが、日韓海峡沿岸8県市道のますますのご発展と、本日もご出席の皆さまのますますのご活躍とご健勝を祈念させていただきます。私の挨拶といたします。よろしく申し上げます。

（山中） ありがとうございます。

では、議事に入りたいと存じます。議長は開催県の知事が務めることになっておりますので、佐賀県の山口知事が議長を務めさせていただきます。それでは、ここからは議長である山口知事に会議の進行をしていただきます。

山口知事、よろしく願いいたします。

(山口) よろしくお願ひします。

それでは、会議日程に従ひまして、順次、各県市道から共通項目の「スポーツの振興・交流」および自由項目について発表していただき、その後、討論をすることといたします。

最初に全羅南道の李洛淵 (イ・ナギョン) 知事、お願ひいたします。

## 各県市道知事発表

### ①「スポーツを通して健康で活気ある全羅南道に」

李洛淵 (全羅南道知事)

(#スライド番号)

#1

全羅南道の知事、李洛淵です。尊敬する日韓海峡沿岸県市道知事の皆さま、1500 年前、百濟の武寧王が生まれたと言われているここ唐津市で、スポーツ振興と交流に関する施策を発表することになり、喜んでおります。

#2

発表する順番ですが、全羅南道の概況、主要な施策、交流事業の提案、そして自由テーマです。

#3

まず、全羅南道の概況です。

#4

全羅南道の人口は 2014 年末で 190 万人です。1980 年代は 380 万人で、韓国全体の 10% でしたが、今は 3.7%にとどまっています。65 歳以上の高齢者人口が持続的に増えており、2014 年末現在、20.1%という超高齢社会となっております。しかし、全南は美しい島ときれいな干潟など、世界的に海洋資源とクリーンな自然環境を誇る場所です。

#5

スポーツの現状ですが、1980 年代には全国スポーツ大会で 2 位、3 位という成績で上位圏にありましたが、首都圏の集中化や優秀な選手が流出するなど、2010 年以降は大変低迷しています。老人人口の増加で道民の生活のスポーツ産業のニーズは、持続的に増加しています。

#6

次に、主要なスポーツ施策について紹介します。

#7~9

初めに、スポーツ競争力の向上です。先ほど申し上げましたように、スポーツが強い地域としてプレゼンスを回復するために、咸平 (ハムピョン) ゴルフ高等学校と全南スポーツ高等学校など、スポーツの特化学校を育成しています。咸平ゴルフ高校は、日本の女子

ツアーで活躍している申智愛（シン・ジエ）、そして日米韓のメジャー大会を席卷している田仁智（チョン・インジ）選手を輩出したゴルフの名門校です。また、わが市・郡では28の実業家チームも育成しています。

#### #10～14

次に、F1のレース場を活用した各種大会の成果を土台に、レース場一帯に自動車の部品、チューニング関連のインフラを構築しており、関連企業100社を誘致して、モータースポーツクラスターを造成する予定です。

F1を活用しまして、アジアスピードフェスティバルなど、各種モータースポーツ大会を開催しているところです。自動車の性能の試験のためにレース場を貸し出しており、1年に280日回転しております。そして、レース場一帯にモータースポーツのクラスターを造成していく計画です。

#### #15～18

次に、全羅南道の特性を生かした国際スポーツ大会を紹介したいと思います。1970年代、日本の駐韓大使の後宮虎郎（うしろく・とらお）が「地中海よりも美しい」と非常に褒め称えたことがありました。これは木浦の海ですが、このような美しい木浦の沖合を背景に、毎年9月に国際ジェットスキー大会が開催されています。

そして、多島海で非常に美しい国際ヨット大会が開催されています。これは日米韓など6カ国から43隻のヨットと400人余りの選手・関係者が参加しています。

36カ国570人が参加する国際トライアスロン大会も、求礼郡で開催する予定です。

そして、金寅（キム・イン）、曹薫鉉（チョ・フンヒョン）、李世翌（イ・セドル）など3人の国家代表を輩出した全羅南道は、毎年8月に国手山脈国際囲碁大会を開催しています。日中韓プロ囲碁大会、そして、子どもの囲碁フェスティバルを通じて、未来のプロの育成、国際交流に力を注いでいます。

#### #19

次に、共同交流事業についてです。まず一つ目は、海洋スポーツ交流です。8県市道、全てに海という共通点があります。ヨット、カヌーのような1種目をまず決めて、八つの県市道が持ち回りで開催していくならば、海洋スポーツの発展に大きく貢献するでしょう。

#### #20

二つ目は8県市道で、夏季青少年スポーツ交流を行うということです。日韓両国は1996年から、日韓青少年夏季スポーツ交流イベントを開催してきました。今年全羅南道の麗水で19回目の交流行事がありました。両国の青少年たちが、お互いの文化を理解する貴重な機会だと思います。

この8県市道が、毎年、青少年スポーツ交流行事を開催し、未来のアスリートのグローバルマインドの育成に貢献していければと思います。

#21

最後に自由テーマです。2016年、全羅南道で開催する世界エコデザイン博覧会、そして長興（チャンフン）国際統合医学博覧会の二つを紹介します。

まず、2016年の世界エコデザイン博覧会ですが、5月5日から29日まで、25日間、全羅南道農業技術院で「時代を変える新たなライフスタイルを求めて」というテーマで開催されます。

#22～23

次は、2016年9月29日から10月31日まで33日間、長興郡で開催されます、長興国際統合医学博覧会です。「統合医学、人に向かう新しい道を開く」というテーマで、今後の方向性を探ります。

以上がわれわれのスポーツ施策と国際イベントの紹介でした。皆さまのご声援と関心、よろしくお願いいたします。ありがとうございました（拍手）。

（山口） ありがとうございます。

それでは次に、福岡県の小川洋知事にお願いいたします。

## ②「スポーツの振興と交流について」

小川 洋（福岡県知事）

#1

福岡県知事の小川洋でございます。わが国では2019年にアジアで初めてのラグビーのワールドカップ、2020年に東京オリンピック・パラリンピック大会が、それぞれ開催されるということで、スポーツを振興しようとする動きが加速しております。

特にオリンピックの開催が決まりまして、全国各地でスポーツの振興とスポーツを通じた地域の活性化に向けた取り組みがスタートしておりますが、国では2020年、東京オリンピックまでの間に、海外、世界にスポーツの素晴らしさを感じていただくために、スポーツ・フォー・トゥモロー事業というものに取り組んでおります。

この写真はその一環として、福岡県がやりましたアジア太平洋地域の子どもの運動会の一場面です。人種・性別を超えた、こうしたお子さんたちの笑顔を見ると、改めてスポーツの持つ力の大きさというものを感じます。

以下、福岡県のスポーツの現状と、振興施策についてご紹介をさせていただきます。

#2

福岡県はスポーツが非常に盛んなところでして、いろいろな種目のプロを含めたチームがたくさんあります。

昨シーズン、プロ野球日本一となりまして、今シーズンはパ・リーグ史上最速でリーグ優勝を決めたソフトバンクホークスがあります。左の上です。釜山の李大浩（イ・デホ）選手もここに属し、大いに活躍され、ホームラン31本を打たれたところです。

サッカーはJリーグのアビスパ福岡とギラヴァンツ北九州の2チームがありまして、ア

ビスパ福岡では李光善（イ・グァンソン）選手が活躍中です。今、2部リーグで3位、上位につけております。上に上がりたいと思ってやっております。

また、下の大相撲ですが、東京以外には大阪と名古屋の2カ所、それに私どもの福岡県、地方は3カ所で行われているわけです。11月、来月に行われますが、2年前のこの知事会議でも知事さんと一緒に相撲会場に行って観戦をしたところです。いまや秋の風物詩として定着しております。

### #3

それからその他、プロのバスケットボールチームであるライジング福岡や、ラグビーはコカ・コーラ、サニックス、九電の3チームがあります。アマチュアスポーツも非常に盛んでして、ここではインターハイの自転車競技の高校生が出ていますが、この夏の高校のインターハイでは、福岡県は4競技で日本一になっております。

### #4

次に、国際的な大会も福岡で開催されることが多く、これまで学生のオリンピックでありますユニバーシアード大会、それから世界水泳、アジアジュニア卓球、ゴールデンオーレディーズ・ワールドラグビーフェスティバルを開催してきました。

2013年には左の下にありますようにフィギュアスケートのグランプリファイナルを開催しました。このときに羽生さんと浅田さんが優勝しましたが、羽生さんはその後にありますソチオリンピックで、日本男子で初めてフィギュアスケートで金メダルを日本にもたらしたことで有名になっております。

それから、毎年開催されている大会としまして、右の上から2番目ですが、ワールドラグビークラス交流大会、それから下の真ん中ですが、福岡国際マラソン、それから右下の飯塚国際車いすテニス大会というものをそれぞれやっています。

ラグビーのユースの大会はもう16回目で、海外から9カ国、ニュージーランドやオーストラリア、非常に強豪国の子どもたち、それから韓国、お国からも参加していただいているところでございます。

飯塚の車いすテニス大会は、車いすテニス大会の四大大会に次ぐ大会として位置付けられており、特に開催手法が、地域の皆さんのボランティアの活動を中心にこの大会を運営しており、世界的にも、町の名前を取って「飯塚方式」と呼ばれ、高く評価されているところです。握手しておりますのは、国枝選手と上地選手です。数多くのこの世界の一人者が、この飯塚の大会には参加していただいています。

### #5

次に、イングランドで今、ラグビーのワールドカップ2015が開かれております。私、今日は4時に起きてテレビで試合の実況中継を見たのですが、日本はアメリカに勝ったのですが、3勝1敗でBリーグ、良かったのですが、勝ち点で3位になってしましまして、ベスト8進出を逃してしまいました。非常に残念でしたが、これを機に非常にラグビーの関心、あるいはファンが増えております。2019年には日本でアジア初のワールドカップが開かれますので、それに向けてみんなと一緒に盛り上げていきたいと思っております。

この左下にありますように、私どもの福岡市内にあります「博多の森球技場」が、12ある日本の会場の一つになっております。この大会の成功に向け、関係者が一体となって準備をし、盛り上げていきたいと思っております。

大勢の皆さんが海外からお越しになると思っております。韓国は非常に近く、福岡まで飛行機で釜山から50分、ソウルから1時間、船でも釜山から3時間でジェットフォイルで来ますから、そういう意味では近いです。

ラグビーはオリンピックと違って、試合間隔、試合と試合の間が長いものですから、その間は皆さん、観光などいろいろ違う時間の使い方をされます。そういう意味では、九州あるいは山口にいろいろ周っていただく、いい機会だろうと思っておりますので、ぜひともお越しただいて、世界トップのプレーヤーのゲーム、試合と、それから福岡、九州・山口のいい所を見ていただく、あるいは魅力に接していただきたいと。食べ物もおいしいです。お越しただいただければと思っております。

#### #6

それからもう一つご紹介したいのは、福岡県は全国の都道府県に先駆けて、タレント発掘事業をやっております。もともとスポーツ振興を一生懸命やっていて、健全者も障害のある方も問わず、誰もがスポーツに親しめるようなスポーツ振興をやってきています。

一方で、プレーヤーの育成にも力を入れており、2004年から先ほど言いましたタレント発掘事業をやらせていただいております、大体3万人を超えるお子さんたちが毎年エントリーしてきます。エントリーして、その中から特性に合わせて絞り込んでいって、育てていくということです。その人たちが、国際的な大会も含めて活躍をするということになっております。結局、その能力に合った種目を見つけて育てていく、そして世界的なところでも活躍してもらおうという事業です。

3万人がエントリーしてやって来ましたが、35人のジュニアのアスリートが、日本タイトルを53、取っております。そして日本代表に選ばれた人も25人います。一昨年、フェンシングのアジアジュニア選手権が開かれたのですが、そのときは金・銀、2人、私どもの県の子が取ったわけです。その後、仁川で開かれたアジア大会に出たのですが、残念ながら入賞を逃したということです。

このタレント発掘事業というのは、私どもが最初に始めたのですが、今は全国各地に広がってきており、47ある都道府県のうち、今日お越しの山口県を含む14の自治体でこの事業が行われております。

昨年度から、私ども福岡県だけではなく、九州全体でこのようなことをやったらどうかということで、ブロック単位でこれを始めたところです。ブロックでやっているのは九州と東北の2地域だけです。

#### #7

そのトップアスリートの養成の中で、福岡県は昨年度から国と連携しまして、アーチェリー競技を重点強化種目として、2020年のオリンピック出場を目指して養成しております。現在小学5年から大学1年までの24名がこのアカデミーに属しております。

アーチェリー競技というのは、非常にお国の韓国が非常に強い国でありまして、このア

カデミーのコーチは、左下の尹惠善（ユン・ヘソン）コーチを韓国からお招きして、指導に当たっていただいています。今年2月にはアカデミー生を韓国に派遣して、合宿をやらせてもらいました。その結果、今年、アメリカでユースの世界大会があり、日本の代表が3人出場しましたが、そのうち2人がこのアカデミーで学んでいる子でした。

#8

それから、スポーツを通じた地域交流、先ほどお話がありましたように、人と人との交流、あるいは地域と地域の交流は国と国との信頼関係、友好関係の礎、基礎になるものです。

スポーツの交流を一生懸命やろうということで、今、申しあげました韓国との交流を福岡県はやらせていただいておりますが、ジュニア世代の交流では、これも優秀な人材の育成に取り組んでおられますが、釜山大学の体育英才センターに参加している韓国のお子さんたちと、私どものタレント発掘事業の生徒の交流をさせていただいております。併せて、どういう形で育成しているのか、どういうコーチ方法を取っているのか、そのようなことについての情報共有もさせていただいております。

昨年7月、慶尚南道の梁山（ヤンサン）市から市長をはじめ訪問団が私ども福岡県に來られまして、施設の視察や情報交換をさせていただきました。特にこのタレント発掘事業には関心を示されたようでした。

今、地域との交流を申しあげましたが、この国際的な交流だけではなくて、県内の市町村間の交流にも私どもはスポーツを使わせていただいております。昨年、初めて、県内60の市町村があるわけですが、全市町村が参加して、市町村対抗駅伝大会「福岡駅伝」というものをスタートさせたところです。互いにタイムを競い合い、交流を深めるということです。もう一つの効果は、それぞれの市町村を代表して選手が走っていると、みんなで一生懸命応援するという意味では、地域の一体感が非常に高まってきたなと思います。

スポーツの振興だけではなく、これを地域の振興にうまくつなげたいということで、私はこの駅伝と併せて、ふるさとフェアというものを会場でさせてもらっています。多くの市町村が地元の特産品などを展示販売します。ふるさと自慢のことをいろいろやるわけです。そういうことで、スポーツとある種の文化、そのようなものをある同じ場所で活用して交流を深めていく、地域の一体感を増していくということで、非常に効果的な事業だと思っています。

#9

最後になりましたが、スポーツというのは国や地域を超え、人と人との交流を深める上で欠かせない活動です。2019年のラグビーのワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会、その開催を契機に、私どもとしてはトップアスリートの育成、子どもたちの体力の向上、そして、今申しあげた地域の活性化を目指して、スポーツの振興と交流事業にしっかり取り組んでいきたいと思っています。

アジアの玄関口でございます九州各県・山口県と共に、日韓海峡沿岸の各市道の皆さま方との交流をこの分野でも深めていきたいと考えております。これからもよろしく願います。

最後に、自由テーマになると思いますが、お手元にビラをお配りしております。この自動車のプラモデルのようなものを書いてあるものですが、福岡モーターショーが 2015 年 12 月 18 日から 21 日まで福岡市内で開催されます。国内外の最新技術によるコンセプトカーと、市販車など次世代の車にも触れることができる、家族、お子さんたちみんなで楽しめるイベントにしております。ぜひともお越しいただければと思います。

以上、発表を終わらせていただきます。ありがとうございました（拍手）。

（山口） ありがとうございました。

それでは次に、慶尚南道の崔球植（チェ・グシク）副知事をお願いいたします。

### ③「慶尚南道におけるスポーツ産業の育成」

#### 崔球植（慶尚南道副知事）

#1

皆様こんにちは。私は慶尚南道副知事の崔球植と申します。知事の代わりに私が参加したことをお許しいただきたいと思います。私は国際政治学を専攻しました。国際政治学の基本、前提は、人は引っ越せるけれども、国は引っ越せない。隣国と仲良くするのは選択ではない、運命であるということです。

国際政治学と民主主義を統合した民主平和論という理論によりますと、実証的な研究の結果、民主化された国の間には戦争がないという結果が出ました。今年 24 回目を迎えるこの知事会議が、両国の友好発展に大きく資してきました。特に、このような立派なところで今年の行事を準備していただきました佐賀県の山口知事、それから関係者の皆さまにお礼を申し上げます。

佐賀県の山口知事は難しい間で、国交正常化を待って、生まれてきたと聞いております（※）。そのような心に敬意を表しながら、私の報告に移りたいと思います。

※会議前の「国交正常化 50 周年に私も 50 歳」との山口知事発言を受けての発言。

#2

私は共通主題として、慶尚南道のスポーツ産業の育成、財政健全化、それからわれわれの主要な行事について報告させていただきます。

#3

慶尚南道は海洋スポーツの人口がずっと増えてつあります。2000 年の 157 万から、2010 年は 554 万まで増えてきました。

#4

慶尚南道はこのように流れに積極的に対応するため、海洋スポーツの育成に努力してきました。毎年、1 万 7000 人に海洋スポーツ教育プログラムを実施して、ビギナーもたやすくアプローチできるようにしています。29 のヨットクラブを育成しています。

#5

それから各種大会を開催して、選手間のハイレベルの競技を観覧できるようにし、一般人の参加機会も与えています。統営（トンヨン）などの国際ヨット大会、昌原（チャンウォン）の国際モーターボートグランプリ大会、固城（コソン）の全国ウィンドサーフィン大会などが毎年開かれています。慶南の一番大きい島である巨済（コジェ）では、海洋スポーツの総合フェスティバルである「海へ、世界へ」のフェスティバルに毎年10万人が参加し、開催されています。

#6

私たち慶尚南道は内部で三つの圏域に分かれて、発展を図っています。中部圏はイタリア・ナポリ港になぞらえる、統営に置かれている忠武（チュンム）マリーナを中心にマリーナネットワークを構築し、東部圏は鎮海（チンヘ）グローバルテーマパーク、それから西部圏は河東（ハドン）を中心にマリーナの拠点を調整する計画です。

慶尚南道のこのようなグランドデザインは、韓国では釜山と全羅南道、それから日韓海峡を越えては、日本とネットワークが形成されるときに地域全体の海洋スポーツが活性化されると思っております。

#7

日韓海峡は日韓の交流のチャンネルですし、絶えず人と物流が移動するところです。これからはヨットとボートといった海洋スポーツに満ちた所に発展することを期待しています。

#8

それから、慶尚南道の財政健全化についてお話しさせていただきます。それは慶尚南道だけの問題ではなく、自治体の借金は持続的に増加してきました。慶尚南道の場合は、2008年に4500億ウォンの負債が、2013年には1兆3000億ウォンまで増加してきました。毎年、借金で借金を返すという悪循環に陥っています。

#9

われわれの知事は、財政健全化が一番重要で急務の事案であると認識して、問題解決に積極的に取り組んできました。財政点検団という専門機構を設置して、必要でない予算の支出を減らしてきました。その結果、今年は12年ぶりに借金のない予算が編成できてきました。

#10

それから、改革団体の改革も推進してきて、重複した機関の改革を通じて、効率的な運営を図り、福祉分野の予算の無駄遣いを遮断してきました。

それから、巨加大橋のリファイナンスというのがハイライトと言えることでしょう。国家の予算が不足してきて、一時、嵐のような勢いで民間資金を投入したインフラを建設した時期が韓国ではありました。われわれの巨加大橋という橋が代表的なケースで

して、MRG方式で今後37年間、5兆6893億ウォンのコストが支出される予定でしたが、SCS方式にリファイナンスして、協定を変更して、逆に2418億ウォンを収入として得ることができました。

#11

その結果、去る3年間、負債が1兆618億ウォン減ってきてまして、2016年末には負債額ゼロを達成する見込みです。

#12～13

次は、われわれの主なイベントについて紹介します。2016年4月1日から6月12日まで、慶南・固城で恐竜の博覧会が開催され、また、伝統韓方の博覧会も開催される予定です。皆さまの積極的な関心と参加をお願いいたします。ありがとうございました（拍手）。

（山口）ありがとうございました。

それでは、次に、長崎県の中村法道知事をお願いいたします。

#### ④「スポーツがつなぐ海外との絆」

中村 法道（長崎県知事）

#1

長崎県知事の中村法道でございます。本日の会議開催に当たり、大変なご苦勞を頂きました山口知事さんをはじめ、佐賀県の皆さま方に心から感謝を申し上げます。

それでは、私から、本県のスポーツを通じた海外との交流等についてご紹介をし、今後の8県市道におけるスポーツ交流についてお話をさせていただきたいと思っております。

#2

ご覧いただいております写真は、昨年度、本県で開催しました国内最大のスポーツ大会であります国民体育大会、ならびに全国障害者スポーツ大会の写真です。両大会では合わせて、選手・役員等を含めて95万人の皆さま方に参加していただき、678億円の経済波及効果を得るなど、大きな盛り上がりのうちに終了することができたところです。

#3

両大会を開催したことは、本県に大きな財産を残してくれました。その一つは「スポーツ施設の充実」です。Jリーグの開催にも対応できるような陸上競技場の建設、国体開催に合わせてさまざまな種目のスポーツ施設が整備・改修されました。

2点目は「大会運営のノウハウの蓄積」です。両大会を経験することで、大規模なスポーツ大会を開催するノウハウを獲得することができたところです。

三つ目は「ボランティアの養成」です。延べ1万人を超える県民の皆さまが、各競技の運営支援、あるいは障害者の情報支援など、さまざまな形でボランティアとして参加し、国体大会を支えてくれたところです。こうした両大会のレガシーは本県にとって大きな財

産となっているところであり、これを絶やすことなく、今後のスポーツ振興に役立てていかなければならないと考えております。

#### #4

わが国においては 2019 年ラグビーワールドカップ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックと、これから世界的なスポーツイベントが開催されますが、こうした動きは本県にとっても絶好のチャンスであると考えており、こうしたスポーツを通して海外との交流を深め、地域活性化に結び付けていきたいと考えております。

本県は大変古くから、アジアでは韓国、中国、西洋ではオランダやポルトガルとの友好交流の歴史を築いてまいりました。今後とも、こうしたつながりを大切にしながら、これまで獲得したレガシーを活用して、海外とのスポーツツーリズム、あるいはスポーツを通じたまちづくりに力を注いでいきたいと考えております。

#### #5

そうした取り組みの一つとして、長崎県では海外チーム等のキャンプ地誘致に力を注いでいるところです。海外のトップレベルの選手・チームを地域に迎えることで、県内の競技レベルの向上や「スポーツのまち」としての地域ブランド化を進めて、スポーツ合宿等の拠点形成を目指していきたいと考えております。

こうした取り組みをさらに積極的に進めるため、先般、スポーツコミッションを立ち上げることとしました。今後はこのスポーツコミッションを中心に、各選手の皆さまが安心して練習できる環境を整備し、韓国からも多くの方々をお迎えしたいと考えております。ぜひ皆さま方におかれましても、そうした機会がございましたら積極的にご活用いただきたいと思っております。

#### #6

さて、今回の共通テーマであります「スポーツの振興・交流」に関しましては、民間主体の継続的な交流としていくことが重要ではないかと考えております。本県では、民間のスポーツ交流に対しては側面的な支援に力を注いでおりますが、今年はプロサッカーチームであります V・ファーレン長崎が中心になって、日本と韓国、中国の U-12 チームによる大会、VREDE CUP（ブレードーカップ）、この VREDE というのはオランダ語で「平和」という意味ですが、この VREDE CUP がスタートしました。

また、太極拳につきましては、発祥の地であります中国湖北省の武当山と本県の太極拳団体が相互に訪問しつつ、交流を深めてまいりまして、今年度からは民間主体の交流に移行したところです。

このため、今後 8 県市道によるスポーツ交流についても、民間レベルでの息の長い相互交流に発展できるような、そういうスキームを検討することが必要ではないかと考えているところです。そうした上で、サッカーやアーチェリー、あるいはテコンドーやマラソンなど、両国で盛んな種目を中心に、積極的な展開ができないかと考えているところです。

#7

スポーツは国境や言葉を越えて人々をつなぐ力があると考えております。スポーツを通して、今後さらに日本と韓国との絆が深まってまいりますよう、努力してまいりたいと考えております。

#8

続きまして自由テーマとしまして、長崎県からは日本遺産の取り組みについてご紹介させていただきます。

#9

日本遺産は今年度から始まりました、わが国独特の取り組みでありまして、地域の特色ある複数の文化財を広がりのある面として認定し、一つ一つの文化財では分かりにくい、その地域の持つ歴史や伝統文化を語るストーリーを顕在化させようとするものです。

その歴史やストーリーを一体的に PR することで、地域のブランド化やアイデンティティの形成を促進し、ひいては観光客の誘致につなげようとするものであり、わが国では2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに100件程度の認定が見込まれているところです。

#10

日本遺産第1号となる今年度は、全国から83件の申請がありましたが、本県から申請しました「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」が今回認定されました18件のうちのひとつとなったところです。国境の島は、日本本土と大陸、韓国を含む両地域の間位置し、大変古くからこれらを結ぶ海上交通の要衝として、交流・交易の拠点として発展を遂げてきました。

壱岐・対馬・五島は国境の島ならではの融和と衝突を繰り返しながらも、連綿と大陸との交流を今日に伝えているところです。

#11

特に、対馬は韓国・釜山との距離がわずか49.5kmであり、古くから対馬を介して韓国・朝鮮半島と日本との交流が行われてまいりました。

大陸から朝鮮半島を経て伝わったとされます対馬の亀ト（キボク）習俗、あるいは江戸時代に朝鮮通信使ご一行をお迎えした金石（カネイシ）城跡など、有形・無形の文化財が日本遺産の構成文化財となっているところです。

今もなお、日韓友好の象徴であります朝鮮通信使行列の再現や、釜山の花火大会と連動して、対馬国境花火大会を行うなど、韓国との交流が続いているところであり、こうした歴史を生かしたまちづくりに力を注いでおります。

#12

今後は今回認定されました日本遺産の有形・無形の文化財について、しっかり調査・研究を進め、それらの資産が自ずと語り始める国境の島ならではの歴史や伝統文化のストー

リーを広く国内外に発信していきたいと考えております。

また、対馬においては、観光情報館「ふれあい処つしま」、あるいは比田勝港の国際ターミナルの整備も進めております。さらなる交流拡大と日韓友好のために力を注いでまいりたいと考えておりますので、ぜひこれからもよろしく願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました（拍手）。

（山口） ありがとうございます。

それでは、ここで約 20 分間の休憩といたします。14 時 40 分までにお席にお戻りいただくようお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

—休憩—

（山口） よろしいでしょうか。会議を再開したいと思います。休憩中に徐市長に外に出ただいて、高島という島があるのですが、宝当神社という神社のことまで知られていたの、私は驚きました。皆さんもその島の神社に行くと、宝くじか選挙にご利益があると言われていきますので（一同笑）、もしお困りの際は私の方に電話を頂ければあっせんしたいと思います。

本当は今日も、スポーツですし、外でなどいろいろ考えたのですが、まさかこんなに天気がいいと思わなくて、皆さんの行いのせいだと思っています。

ということで、その徐秉洙（ソ・ビョンス）釜山広域市の市長からお願いしたいと思います。

## ⑤「スポーツを通じ一つになる日韓海峡」

徐秉洙（釜山広域市市長）

#1

尊敬する日韓海峡沿岸県市道の知事の皆さま、お目にかかれてうれしいです。今年は日韓国交樹立 50 周年になる年で、今日、佐賀県で日韓海峡沿岸 8 県市道の共同の発展のために、多様なテーマで発表の場がこのように開かれたことは意義深いことだと思います。この会議のためにご尽力くださいました山口祥義佐賀県知事にも感謝を申し上げます。

先ほど知事がおっしゃいましたが、高島は宝くじに当たるというお話です。当たったのですかと聞いたのですが、宝くじではなく、知事に当選したというお話を聞きました。他に選挙に挑まれる方は、一度お訪ねください。そして、そのときには知事に直接、案内をお願いしたいと思います。

それでは、今回の共同テーマである「日韓海峡 8 県市道のスポーツの振興・交流」の方策について、釜山市の交流の現状を中心に政策提案をしたいと思います。

#2

まず一つ目のスライドですが、これは釜山を紹介するものです。人口が 360 万人、韓国では世界に通じる関門として、韓国の海洋首都と位置付けられています。夏は涼しく、冬

は暖かい、こういう温暖性気候のおかげで、1年、四季を通じてスポーツを楽しむのに非常に良い環境となっています。

#3

釜山は1988年、ソウルオリンピックのヨットレース、そして2002年の釜山アジアゲーム、そして日韓のワールドカップサッカー、そして2008年の釜山世界社会体育大会など、国際スポーツ大会を成功裏に開催しました。そういう世界大会を通じて、都市発展の起爆剤としております。

#4

これは釜山の無限の可能性を示している、可能性のある都市であるということをお知らせしたいと思います。大規模な大型国際スポーツ大会の開催の経験、そして26の国際規格の専門スポーツ施設が整った、国際スポーツの力量を有する都市であり、海洋スポーツ分野の潜在的な可能性があるグローバル海洋首都です。

また、情熱、包容性、そして開放性のある環太平洋・北東アジアの関門都市として、日韓海峡沿岸メガシティの構築をリードしていきます。

#5

次は、釜山のスポーツ交流の現状です。日韓親善アリランレースヨット大会、これはヨットレースと、そして生活体育国際親善交流、そして青少年の交流となります釜山ー福岡青少年スポーツ交流大会と、釜山ー福岡親善交流水泳大会を継続して開催しています。現在開催されている国際スポーツ交流は民間団体の交流レベルですが、青少年交流は都市ごとにその規模がだんだん縮小しているというのが現状です。

#6

ですから、本日、この8県市道の皆さまにお目にかかったこの場で、みんなで協力をして、スポーツ協力を通じた共生発展の方策として、三つを提案してみたいと思います。

#7

まず一つ目、日韓親善アリランレースヨット大会ですが、この拡大開催を提案したいと思います。このアリランヨット大会は、釜山スーパーカップ国際ヨット大会のサブイベントで、釜山から福岡まで大韓海峡を渡ってレースを繰り広げる大会として、1973年から始まり、2年に1度、22回、民間交流として推進されてきました。

8県市道は、この海を挟んで間にしている地域であるために、この大会をオール8県市道で拡大して、交代で開催するならば、国際スポーツ交流の意味が非常に大きくなるのではないのでしょうか。この8県市道の交流だけでなく、スポーツ交流という意味でも非常に大きな発展を見るでしょう。

#8

次は、未来のアスリートの競技力の向上、そしてグローバルマインドの育成のために、

日韓青少年スポーツ交流大会の拡大開催を提案したいと思います。現在、開催されている釜山－福岡青少年スポーツ交流大会は1992年に始まり、2011年、5大会8種目の交流から始まり、2015年には2大会6種目の交流を実施しました。

交流地域も釜山と福岡市に偏っているので、8 県市道の体育会が主管する、日韓青少年スポーツ交流大会へと拡大し、韓国と日本を行き来しながら巡回で開催すると、大きな負担なく交流を推進できるのではないかと思います。

#9

そして最後に、日韓国際スポーツフォーラムの創設を提案します。先ほど提案した日韓青少年スポーツ交流大会のサブイベントで開催して、8 県市道の体育会が共同参加し、生活スポーツ政策研究、そして国際スポーツ交流共同事業の掘り出し、そして学校スポーツの振興方案の研究などを通じ、8 県市道の先進的なスポーツ施策を交流してレベルアップを図れればと思います。

この三つの事業を通じて、8 県市道がスポーツ交流の協力で共生発展を図り、日韓の友好協力関係がより深まることを期待しております。

#10～12

続きまして、自由テーマです。クルーズ産業の活性化のための提案を行いたいと思います。

アジアクルーズ市場を見ますと、2兆ウォンの規模で、2013年基準で137万人の観光客、そして2020年には700万人にまで急成長すると予測されています。

クルーズ観光の需要の増加によって、世界で3番目に大きく、新しく造船されたクワンタム・オブ・ザ・シーズ号が、今年初めてアジア航路を就航したのは、アジア市場の重要性とともに、これにふさわしい対策が急がれるということの意味しています。

この8 県市道がクルーズ航路を共同開発して、航路内の自治体が船舶会社と旅行会社を対象に、共同マーケティングを、そして共同商品を開発していくことを提案したいと思います。クルーズ産業の活性化のための共同事業を通じて、アジアクルーズ市場を先取りし、地域経済の活性化、そして新規の雇用創出を図れることを期待しております。

以上で釜山広域市のテーマ発表を全て終わりたいと思います。ありがとうございました（拍手）。

（山口） ありがとうございました。

それでは、次に山口県の村岡嗣政知事をお願いします。

## ⑥村岡 嗣政（山口県知事）

#1

ヨロブン、アンニョンハシムニカ。

山口県知事の村岡嗣政です。どうぞよろしくお願ひいたします。

#2

山口県の取り組み等についてご紹介させていただきますが、最初に「世界スカウトジャンボリー」についてご報告させていただきます。

今年の夏、山口県で世界スカウトジャンボリーが開催をされました。これは4年に1度、世界各国、各地域で開催されています。日本で開催されるのは44年ぶりでしたが、今年の夏、山口県で開催されました。155の国と地域から約3万4000人のスカウトが参加して、成功裏のうちに幕を閉じました。韓国からも500人、大変多くの皆さま、スカウトの皆さまに参加いただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

#3

それでは、本県のスポーツの振興・交流につきまして紹介させていただきたいと思いません。

本県では4年前、2011年に国民体育大会「おいでませ！山口国体」と全国の障害者スポーツ大会であります「おいでませ！山口大会」を開催いたしました。19の市や町がありますが、県内全ての市や町で競技を実施しまして、この大会を契機として県民のスポーツに対する関心の高まり、競技力の向上、そういう大きな成果を得ることができたと思っています。

左下にありますのは、この大会のマスコットキャラクター、現在、山口県のPR本部長で「ちよるる」というのですが、こういう体育大会を開催しました。

#4

次に、大会の終了後ですが、県内の全ての市や町で何らかのスポーツをしましたので、県内の各市町で山口国体・山口大会の地元の開催競技をそれぞれの地域に定着させていく、また育成をするということで、「我がまちスポーツ」の取り組みを進めています。

例えばラグビーを開催した市では、ラグビーが身近なスポーツになるようにラグビー教室を開催する、あるいは先ほど福岡の知事からもありましたが、世界大会も開かれます。その事前キャンプ地の誘致を目指すなど、ラグビーを核としたまちづくりを進めている地域があります。その他にも、韓国からのツアー客を誘致するために、複数の市で連携してサイクリングのイベントを開催するなど、そういう県内の各地域で特色のある「我がまちスポーツ」の取り組みが行われています。

このような市や町の取り組みを積極的に県としても支援をしていって、地域のスポーツ人口の拡大につなげていこうという取り組みをしています。

#5

それから、山口国体・山口大会では、大会を支えます多くのボランティアが活躍しました。ボランティアの育成もしながら、その活用をして、さらに地域のスポーツにこのボランティアを生かしていきたいと思っています。その成果を生かして、地域におけるスポーツをさらに活性化させるために、山口県におきましてはスポーツボランティアをさらに養成するという取り組みをしています。

このスポーツボランティアには講習会を実施しており、登録時にボランティア手帳を配

布しています。これで実地での研修や講習の受講状況を記録しています。それから、受講時間に応じてリーダーに認定するというのもやりまして、ボランティアへの継続的な活動への参加を促しています。

現在、山口県内で約 1400 人のスポーツのボランティアが活動しています。このボランティアが県内各地で行われる、さまざまなスポーツのイベントの選手の受付、あるいはコースの誘導、そのような大会の運営の補助に大変活躍して、大きな力になっています。

#### #6

次に、山口県におきましては、県民の皆さんができるだけ気軽にスポーツに参加できる環境づくり、また、県民の皆さんのスポーツへの理解の促進、あるいは参加意欲の向上を図るために、毎年 10 月をスポーツ推進月間としています。このスポーツ推進月間の中心行事として総合スポーツ大会を開催しています。この大会において、スポーツ教室や障害者のスポーツ大会、そのような各種のスポーツイベントを総合的に実施しています。

昨年、山口県にもプロサッカーチーム・レノファ山口が誕生しました。今、J3 という 3 部のところにおりますが、今は 3 部の中のトップになっており、このままいけば来年 J2、2 部に行けるのではないかと県民の期待も高まっていますが、そのスポーツチームも誕生しました。今月開催されるスポーツ大会では、その公式戦も併せて行うということになっています。プロとアマと一体になってスポーツを盛り上げていこうとしています。

#### #7

また、特に高齢化も進んでいる中で、高齢者のさらなる社会参加の促進や、あるいは生きがいづくりの高揚をしていく、そういう契機をつくっていききたいということで、今週末、10 月 17 日から 20 日まで「ねんりんピックおいでませ！山口 2015」というのを開催します。

これは毎年、全国各地、どこかで開かれています。ねんりんピックという大会は 60 歳以上の方々を中心として、あらゆる世代が楽しんで交流することができる、そういう文化とスポーツの祭典です。全国から約 1 万人、選手・役員をお迎えすることとなっています。

25 のスポーツ、文化の交流大会が開かれるということで、これも先ほど言いました県内の全ての 19 の市や町で何らかの競技が開かれるという形でやっています。これは毎年、全国どこかの県でこの大会はやっていますが、全ての市や町で何らかの交流大会をするというのは、ねんりんピック史上初めてのことです。

先ほど言いましたように、国体でも何らかの各地域で取り組みをして、それがまた将来につながっているように、この大会でも全ての市や町で交流大会が開催されるということです。これをさらにその後も継続して、それぞれの地域の、特に高齢者の皆さんにスポーツや文化の交流が広がるように生かしていきたいと思います。ちなみに、来年は長崎県で開催されますので、また長崎の方でも同じような取り組みがこれからされていくことになろうかと思っています。

#### #8

次に、山口県が友好締結をしている慶尚南道とのスポーツの交流についてご紹介させていただきたいと思います。山口県と慶尚南道は 1987 年 6 月に姉妹提携を結んでおり、それ

以来、幅広い分野で交流を重ねてきました。

その中で高校生によるスポーツ交流をやっており、1991年に山口県の交流団が慶尚南道を訪問してから始まっています。これまでサッカーやバスケットボールなど、さまざまな競技で交流を深めてきました。

今年は山口県で、慶尚南道昌原（チャンウォン）市の馬山（マサン）高校と、下関市の下関商業高校、これは県下有数の野球の強いチームですが、下関商業高校が硬式野球の交流試合を行いました。結果は6対6の引き分けということでしたが、両県道の次の時代を担う高校生がスポーツの交流を通じて、友好改善の精神、また豊かな国際感覚を身に付けて両国間の架け橋になることを期待しております。このような交流をさらに続けて、深めていきたいと思っております。

#9

スポーツによる交流ということで言いますと、冒頭に申し上げましたこのたびの世界スカウトジャンボリーを通じても活発な交流が行われていましたし、同じ目標を目指すスポーツというのは、国際交流の有効な手段の一つであると考えています。

山口県は三方を海に囲まれており、大変海がきれいな景色が多くあるわけですが、そういうものを生かしながら、美しいシーサイドコースを走ります、この絵の左上がそうなのですが、下関の海響マラソンや、歴史のある萩の町並みを走る萩城下町マラソンなどのマラソン大会が県内各地で開催されております。

下関海響マラソンは、山口県では最も大きいマラソン大会ですが、去年は韓国から約80人の皆さんに参加いただいております。これはフルマラソンですが、私自身も昨年参加しました。ランナー同士の交流ももちろんですが、ボランティアや応援で参加される方々との触れ合いも、とても楽しめるものであります。

今年は私もまた参加します。来月の1日が大会ですので、今、練習をしていますし、また下関の市長も参加をする予定ですので、そのような形で首長としても盛り上げながらやっているところです。

#10

それからスポーツによる交流の続きですが、山口県では瀬戸内海に架かる大島大橋という橋がありますが、そこを渡る「サザンセット・ロングライド in やまぐち」といった自転車のレースや、絶景ポイントを楽しむことができる「向津具（むかつく）ロードライド」など、サイクルイベントも開催しています。

例えば今後、サイクリングイベントのコースに秋吉台、これは全国でも有数のカルスト台地で、美しい景観を加えるなどして、本県の魅力をさらに高めるように、楽しめるように、また韓国のサイクリングの愛好家の方も多くいらっしゃると思いますので、来てもらうようにしっかりアピールをしていきたいと思っております。

他の県や市道におきましても、さまざまなスポーツイベントが、先ほどからご紹介されておられますように開催されていると思いますが、国際交流、観光振興の観点からもこのようなイベントの相互交流の促進を提案したいと思います。

#11

最後に、本県で開催されますさまざまなスポーツイベントに、多くの方が参加されるように期待をしております。また、スポーツで汗を流した後は、海の幸、山の幸、おいしいお酒、また温泉で疲れを癒していただきたいと思います。

スポーツを通じて、またその地域の魅力を併せて知ってもらおうということが、これは来てもらった方にも大変喜ばれることですし、交流を深めていく上で大変大きな要素であると思いますので、ぜひこのような交流を深めさせていただきたいと思います。

私からは以上とさせていただきます。ありがとうございました。カムサハムニダ（拍手）。

（山口） ありがとうございました。

次に、済州特別自治道、元喜龍（ウォン・ヒリョン）知事をお願いいたします。

## ⑦「『済州型』スポーツのビジョン及び主要推進戦略」

### 元喜龍（済州特別自治道知事）

#1

皆さん、こんにちは。済州特別自治道の知事の元喜龍でございます。

#2

済州特別自治道のスポーツ施設のインフラ、各体育大会の現況と、それからその他の行事についてお話しさせていただきたいと思います。

#3

済州道は78の公共スポーツ施設と、835カ所の登録および申告した民間のスポーツ施設があり、その中でキャンプや合宿ができるような施設が4カ所あります。山や海といった豊かな自然が、スポーツに対しても特別なものであります。

#4

それから、全国規模のスポーツ大会も開催しています。最近レジャー、ニュースポーツ、それから高齢者にやさしいウェルビーイング・スポーツを集中的にしているところです。2002年に日韓ワールドカップ共催のときにも、済州道で大きな競技を開いたことがあります。去年は国体を成功裏に開催しました。

#5

今年は、3000人の障害者の学生が参加する全国障害学生体育大会、それから全国の子どもが参加する全国少年体育大会を開催したばかりです。

それから、これから開催が確定されている主なスポーツ大会をお話しします。2017年のFIFAのU-20（20歳以下）のワールドカップの開催都市として確定されています。2017年5月から6月まで、韓国の6都市で分散開催するのですが、その中で済州道が開催の中心都市として確定されています。成功裏に収めるように準備をしている次第です。

2017年は、さまざまな全国のスポーツクラブが全部参加するような全国生涯スポーツの祭典を開くことが確定されています。

#6

濟州はスポーツのビジョンに対して、まず経済効果を高める濟州型のスポーツ大会の育成、高品質のスポーツ大会の育成、3番目は社会的弱者のための基盤施設の拡充、それから誰もが楽しむスポーツをもって暮らしの質を向上していく、そのような四つの方向で政策を進めています。

#7

まず、スポーツ産業の育成のためには、多様なレジャースポーツ、高齢者にやさしいスポーツ、ゴルフ、合宿キャンプなどを誘致して、こうしたスポーツ産業を育成する。それから、島の環境と豊かな風を活用した、代表的なレジャースポーツをここで育成しています。

それから、付加価値の高いスポーツ大会を育成して、キャンプと合宿を通じて、濟州道の経済を育てるということに力を注いでいます。

それから、暮らしの質の向上のためのオーダーメイド型の生涯スポーツプログラムを運営しています。そのために関連インフラ施設の充実、参加率の向上のために力を注いでいるところです。

#8

それから、健康100歳時代を実現するために、道民にぴったりしたオーダーメイド型のスポーツ支援をするということを主な施策として展開しています。

5番目に、濟州道も都市に集中している現象が強いので、相対的に疎外感を感じている邑（ユウ）・面（市町村）の農村地域に特化したスポーツ大会を育成しています。

それから、マラソン大会、ハンドボール大会などを邑・面、山村や農村地域に誘致して、均衡的な発展ができるように地域経済の活性化を図っています。

それから社会的な弱者のための、さまざまなインフラ施設と事業を充実させているところです。社会的弱者、いわゆる障害者のためのスポーツ施設を充実させるなど、障害者が参加できるような施策を広げることにも力を入れています。

#9

今年の代表的なスポーツ交流の現状なのですが、大韓山岳連盟の濟州道連盟が、中国のコンカ（貢嘎）山に遠征しました。日本の国際パークゴルフ大会にも参加しました。

それから、ベトナムで開かれている国際アルティメットフリスビー大会にも参加しました。中国の大連市との青少年国際サッカーの交流大会、それから海南省で、濟州道と中国の青少年のサッカーの交流もどんどん広げているところです。

#10

今後のスポーツ交流の方向性について申し上げたいと思います。

まず、国際交流のために、障害者体育の成長を図っています。大阪市の障害者福祉・スポーツ協会と、済州特別自治道とのスポーツの交流を進めています。

それから、モンゴルの障害者オリンピック委員会と2016年にMOUを結びまして、これを強化していく方向に進めていきたいと思います。

それから、済州道の自然の価値を高めるスポーツを誘致しております。皆さん、既にご存じだと思うのですが、オルレ、オルムトレッキングというものが済州道では有名になっています。それから、海洋レジャースポーツや、マウンテンバイク、このようなスポーツ大会に済州道は積極的に支持して参加する計画です。

#11

その他の協力要請です。2016年3月18日から24日まで、第3回国際電気自動車博覧会が済州道で開かれます。電気自動車関連産業群の企業と参加者が集まり、2030年までに「炭素のない（carbon-free）島」にする、そして2030年までに全ての自動車を電気自動車に取り換えるというような計画を進めています。ですから、来年に国際電気自動車の博覧会に、多大な協力をお願いする次第です。

#12～13

それから、来年に第7回済州オルレウォーキングフェスティバルが開かれます。オルレという済州道の独特の地形で、さまざまなウォーキングのために九州からさまざまな人々と機関が参加しています。来年2016年の第7回のオルレウォーキング大会に対しては、われわれの県市道知事会の時期と合致させれば、皆さん、知事様も一緒に参加して、知事会のスポーツ交流の内容をより豊かにする、非常に大きなきっかけになるのではないかと考えております。ご清聴ありがとうございます（拍手）。

（山口） ありがとうございます。

## ⑧「佐賀県のスポーツ推進の取り組み」

山口 祥義（佐賀県知事）

#1

では、最後に私から佐賀県の分を発表させていただきたいと思います。

皆さんのお話を承っていて、非常に一緒にやれるものも多々あるのではないかと思ったのと同時に、スポーツの大事なこととして、将来に残す力、未来へずっとその絆を深めていく、そのような力がスポーツにはあります。よく「レガシー」といいますが、今も韓国側からも、例えば大会を共にやった喜び、成功することができた自信など、そのようなものが海峡を挟んでもできていけばいいなと思ったところです。

今年も佐賀県もスポーツで盛り上がってしまして、例えば濱田真由さんがテコンドーの57kg級で、世界選手権で優勝しました。テコンドーで佐賀県民が優勝するというのは、非常にみんなびっくりしたのですが、非常に努力して、それこそ韓国選手の最大のライバルに勝って優勝することができました。今度、オリンピックがどうかというところはありま

すが。

また、女子のサッカーのワールドカップで有吉佐織選手が非常に活躍しまして、彼女も最初に佐賀県のプログラムをやったときには参加者が1人だったそうです。そういうところから育っていく力というのは大きいと思います。

先ほどから日本側はラグビーの話ばかりが出ているのは、今朝、日本がアメリカに勝ったということも大きかったと思いますが、実はそこで一番点を取っている五郎丸選手は、福岡県から佐賀県の高校に来た選手です。そのような意味でもわれわれは、小川知事と私のところは意味のある両県で、非常に近い県なので、共にこれからも切磋琢磨してやるのですが。

実はもう一つあって、今日はアメリカに勝ったことで、日本は3位に入りました。次の日本大会は、日本はもう出るということです。ということは、今までアジアの1枠が今後どうなるかということですが、僕は香港か韓国だと思うのです。そのときに、私はぜひ韓国のラグビーチームに来てもらいたいと思いますし、九州は福岡で開催しますし、熊本、大分も開催しますから、いろいろな意味でこれからこの分野でもいろいろできたらいいなと思っています。

そして、私からこのスライドに沿って紹介したいと思いますが、まず佐賀県からはスポーツ推進の取り組み、そして交流事業について発表します。

## #2

後ろはサガン鳥栖という、九州で1部は私たち佐賀県だけです。佐賀牛も誇りですが、このチームも佐賀県の誇りです。

金民友（キム・ミヌ）という韓国代表の選手も活躍していますし、ソウルからは金敏赫（キム・ミンヒョク）選手、崔誠根（チェ・ソングン）選手が活躍しています。光州からは白星東（ペク・ソンドン）選手、そしてつい去年まで尹晶煥（ユン・ジョンファン）監督という監督が非常に頑張っていた、非常につながりの深いチームです。

## #3

佐賀県が考えていることとして、上の部分のトップアスリートを伸ばしていくということをしていくと同時に、裾野を拡大していきます。

やはりわれわれの世界だとスポーツというのは、どうしてもする方に頭がいつてしまうのですが、オーストラリア、ヨーロッパやアメリカを見ていると、スポーツをみんなで見たり支えたり、楽しむということが非常に大きくなってきている気がします。

ですから、この三角形を大きくしていくことが大事だろうと思っていますし、それができると、ボランティアもトップアスリートと非常に近い存在になりますし、トップアスリートがトップを引退したときに、今度は裾野を拡大するという仕事もできてくるわけですから、非常に意味のあることではないかと思っています。

## #4

佐賀県では、日本代表を目指す選手を「さがんアスリート」と指定して、特に応援をしています。例えば、先ほど説明しましたテコンドーの濱田真由選手は、16歳の高校生のと

きから支援をしているところです。

障害のある金持選手は、2013年のソフィアデフリンピックで金メダルを獲得している選手です。このようなことで、トップレベルになろうとする選手を応援するという取り組みをしているところです。

#5

県全体で応援を盛り上げます。そして、サガン鳥栖は、もう「サガン鳥栖」という名前でお分かりのとおり、ユベントスと非常に仲の良いチームで、今年はスペインのアトレティコ・マドリードを呼びました。親善試合をするとともにサッカー教室をする。世界に開ける、子どもたちにとって夢の広がる舞台です。このようなことを続けていきたいと思っています。

#6

そして、裾野の部分ですが、これを見ていただいたら分かるのですが。ちょっと失敗していますが、簡単に言うと、走り高跳びの選手なのですが、これは大体、信号機の高さです。あれをまちなかで、みんなに身近で見てもらいます。

走り高跳びを目の前で見るということは、みんなにとってなかなかないので、このようなことを最近始めていて、「自分もやってみよう」。日本の選手にとってどのスポーツを選ぶのかというのは、非常にいつも困った、悩ましいところなのです。ですから、小さいときに、どのようなスポーツが合うだろうかということを考えるチャンスをつくっています。

#7

これも福岡や長崎と同じように、トップアスリートチームのキャンプ誘致をするということで、いち早くスポーツコミッションを立ち上げて、例えば最近では女子野球のオランダ代表や、世界陸上のニュージーランド、そのようなところの事前キャンプを受け入れているところです。

#8

自分たちにどのようなスポーツが合うのか、幅広く測定会をして調べてもらう、あるいは障害者の皆さん方がいろいろなスポーツに触れる機会を増やし、きっかけをつくっているところです。

#9

これが非常に評価の高い「さが桜マラソン」というマラソンです。今日もいろいろなお菓子を出していますが、途中でいろいろなお菓子を食べながらやれる大会としても有名で、1万人のランナーが参加しています。

そして、今年は海外77選手のうち、韓国選手が10名で、全羅南道からも3名参加いただいているところです。海外選手は毎年増えています。今、ランナーが情報交換しているインターネットのサイト「RUNNET」では1800のマラソン大会で3位の評価を受けている大会です。このような多くの方がスポーツに参加するというのが今、起きています。

#### #10～11

自由テーマに移りますが、スポーツ交流事業の提案です。

2018年には平昌で冬季オリンピック・パラリンピック、そして2019年はラグビーがありますが、2020年には東京オリンピック・パラリンピックということで、日韓でスポーツ関係の行事が続けてあります。

日韓海峡沿岸8県市道でスポーツ交流事業として、できるところから8県市道合同でスポーツ大会を実施して、8県市道の連帯を強めて交流の活性化につなげたいと思っています。スポーツ大会は1種目の競技を決めて、8県市道の選手が1カ所に集まって開催することを考えておりますが、2017年に佐賀県で、2018年に韓国で実施するというのではどうかと思います。

#### #12

そして、佐賀県で開催するときには、U-18の年代を対象としたサッカー大会を想定しています。サッカーは日韓で人気が高く、日韓8県市道それぞれにプロサッカーチームがあります。佐賀県のサガン鳥栖との交流や、プロチームの試合が行われている鳥栖ベストアメニティスタジアムでの交流試合を通して、青少年の日韓交流を深めるとともに、オリンピックへと羽ばたく選手が生まれることも願っているところです。

写真は、2013年にサガン鳥栖の選手が全羅南道でサッカー教室を開催したときのものです。

#### #13

スポーツで人を育み、人を結ぶということでありまして、今日はスポーツを題材にこうして議論したのは初めてだったのですが、非常に共通事項も多いなと思いましたし、特に海上スポーツというのはどこでも同じようにやっているのだなというのは、この8県らしい共通点だと思いました。これからさまざま、8県のリーダーで話をしていくといろいろできることが多いのではないかと意を強くしたところです。ご清聴ありがとうございました（拍手）。